

COC ミライづくりセミナー

文化資源としての妖怪

—まちづくりを通じた現代的活用の事例から—



2015.
3/23 MON
15:00-16:30

【趣旨】

1970年代のディスカバー・ジャパンを起点とする観光ブームから80年代のリゾート開発や企業誘致を主軸とした地域の活性化・地域開発を経て、地域の資源を活用した「まちづくり」の重要性が説かれています。

地域資源には自然や産業など様々なものがありますが、文化もそのひとつです。松江市では近年、小泉八雲の『怪談』に登場した場所をめぐる「松江ゴーストツアー」が人気を集めていますし、鳥取県境港市では産官民が一体となって妖怪文化を活用したまちづくりを行っています。

松江や境港のような活動を行っている地域は他にもあり、妖怪文化が地域のアイデンティティ形成や他の地域資源を見直すきっかけとなるなど、まちづくりにとって有効な資源であることが明らかとなっています。

今回のCOCミライづくりセミナーでは、このような「妖怪文化」に焦点を当て、文化資源の活用によるまちづくりについて学びます。

【講師】市川寛也 氏

(筑波大学芸術系 助教)

●講師紹介●

博士(芸術学)。文化資源学の視点から地域住民による妖怪文化の創造のプロセスについて研究している。主な論文に「鶴ばらい祭り考—温泉観光地における民衆文化の創造」『文化資源学』12号(2014年)、「まちづくりにおける妖怪文化の現代的活用に関する研究」『芸術学研究』18号(2013年)など。

SITE

島根大学松江キャンパス 市民交流ハウス FLAT

ENTRY

●対象●
30名(学生優先・参加費無料)
★申込み不要・当日参加歓迎

●問合せ先●
地域課題学習支援センター 助教 中野洋平
松江キャンパス総合理工学部2号館3階北側
TEL.0852-32-9815(内線2084)
FAX.0852-32-9816
nakano-y@riko.shimane-u.ac.jp